

P8311070.JPG 2019/07/27

文久三年十二月三十日より文久四年一月二日まで

P8311070 right

友助来る多事に付、不面、出 殿、越前家より月成奉書二箇、塩鯉二尾を贈り来し旨  
永持来り任官の賀として蠟石印材三を贈られ、且使して茗荷二株児等書画をさし越  
す、一杯を設し旨、甘利へ過日品には謝して今到来の奉書紙一箇を遣す、寺山年暮として  
小鱈一尾持来る一杯を勧め御歳暮品遣す、福茶を煎じ蕎麩を設く

P8311070 left

文久四甲子歳

正月

朔日卯 晴風

雑煮糕を設く、年始御礼有し、御上京御留守に付、五半時前にて謁周防守殿、河内守殿  
備前守殿、御太刀馬代は御納□納に成る、且御仮御殿に付、万石以上以下両■に分れ布衣以下  
小役人

は詰合し分計り御禮申上げ、御老別々廻勤は無し旨御書付出る、鋏次郎来りおる

二日辰 晴

雑煮糕を設く、詰番出 殿、退出より藤沢(扇三箱入)、黄窪(下緒箱入)、牛込(扇五箱入)へ  
年始廻る、長蔵

息鋏次郎へ拾紋付一領麻上下を取らせし旨

三日巳 晴風烈

(○内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。